

本日、ここに令和7年第3回市議会定例会を招集いたしまして、補正予算案をはじめ、当面する市政の重要案件についてご審議をいただくわけであります。

各案件にわたります詳細につきましては、審議の過程で副市長並びに担当部課長からご説明申し上げることといたしまして、私はその概要と5期目に臨む所信の一端を申し述べ、議員各位並びに市民の皆様に一層のご理解とご協力をお願いする次第であります。

さて八幡浜市は、3月28日に、旧八幡浜市と旧保内町の合併による新市発足から20周年という大きな節目を迎えることができました。これは、市議会議員の皆様をはじめ、市民の皆様の温かいご協力と不断の努力の賜物であり、心から感謝を申し上げる次第であります。

5月11日には市民文化活動センターコミカンにおいて市制施行20周年記念式典を開催し、愛媛県知事をはじめ多くの来賓のご出席のもと、日頃より八幡浜市のために各分野でご尽力いただいている市政功労者の表彰を行うとともに、ご臨席いただいた多くの市民の方々と一緒に、これまでの20年の歩みを振り返り、未来へ向かう決意を新たにしたいところです。

式典の第2部では、立川志の春さんによる新作落語「前田山英五郎」を公演していただきました。前田山の破天荒ながらも人間味あふれる人柄や、相撲界にもたらした大きな功績を、これまでにない切り口で表現された素晴らしい落語で、私も大変感銘を受けました。

また、式典には、郷土の偉人である二宮忠八翁が取り持つ縁から、中学生の交流事業を長年実施しております京都府八幡市から吉川副市長、小北(こきた)議長のお二人にご出席いただきました。八幡市とは友好都市協定を8月に締結する運びとなっており、今後お互いに交流を深めていきます。

今年度は、ほかにも20周年を記念して、コンサートや講演会、クルーズ船の寄港など、様々なイベントや新たな取り組みを実施する予定です。市民の皆様と共にこの20年の歩みを祝い、さらに賑わいを創出するとともに、市民に愛される八幡浜を一緒に創っていきたいと思います。

20年を迎えたことを1つの区切りとして、本市は次の10年に向けた新たなスタートを切ったところですが、大規模災害に備えた防災・減災対策、人口減少・少子化対策、医療・福祉サービスの維持存続、産業・観光の振興、道路ネットワーク整備促進、さらに物価高騰対策など、課題は山積しております。

八幡浜市は、前田山や二宮忠八にも象徴されるように、常に新たなことに挑戦する人材を輩出してきた「進取の気性」に富んだまちであります。幾多の困難に立ち向かってきた先人たちに倣い、今後は「次なる挑戦の10年」と捉え、明日への希望や、わくわく感を

もって暮らせるまちを実現するため、これまで取り組んできた5つのプロジェクトに、「愛宕中学校」と「松柏中学校」の跡地活用を新たに加えた6つのプロジェクトを「わくわくする八幡浜2.0」として重点的に取り組んでいきます。

まず「四国電力跡地プロジェクト」では、昨年誘致したマクドナルド八幡浜店の隣接地に移転新築する八幡浜児童センターについて、令和9年4月の供用開始を目指して整備を進めるとともに、引き続きホテルの誘致に向けて粘り強く交渉を続けていきます。

「八幡浜港みらいプロジェクト」については、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめるスケートボードパークと3x3（スリー・エックス・スリー）バスケットコートの整備及び道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」周辺の来場者駐車場と津波避難施設を兼ねた立体駐車場の建設を進めていきます。また、回転寿司店については、事業者との交渉もいよいよ大詰めを迎えたところです。なるべく早く皆様に良いご報告ができるよう、引き続き努力してまいります。

両プロジェクトの実施により、さらなるにぎわい創出と観光振興、地域活性化の核となるエリアを構築していきます。

次に、「愛宕山プロジェクト」についてです。

30年以内に80%程度の確率で発生すると言われていた南海トラフ巨大地震による大災害から、市民の命を守り、被災後の早期復興に繋げることが私に課せられた重大な使命であります。

今後は、既存の避難路として改良を進めております市道八幡浜高野地線に加え、新たな避難路として市道愛宕緑ヶ丘線及び防災広場等の避難場所の整備に向けた準備を着実に進めていきます。また、令和7年度からはソフト対策である事前復興計画の策定に着手し、防災・減災に対しハード・ソフトの両面から被害の軽減につなげていきます。

次に「無電柱化プロジェクト」についてです。

現在、JR八幡浜駅から八幡浜みなとまでの区間について整備が進められており、愛媛県が実施する事業として、昨年度より八幡浜駅前及び江戸岡交差点西側の2箇所でも本格的な工事が開始されました。

また、八幡浜港から八幡浜インターチェンジまでの区間については、令和8年度から12年度までの第9期無電柱化推進計画に盛り込めるよう、引き続き県及び事業者と協議してまいります。長期間にわたるプロジェクトとなりますが、次世代に安全・安心で災害に強い生活環境を継承するため、今後も地元自治体として県と連携し、早期完成に向けて事業を推進してまいります。

次に「世界マーマレード大会プロジェクト」についてです。

マーマレードは、柑橘王国である八幡浜市にとって、地域ブランドの確立、観光振興、産業振興に繋がる重要な資源であります。

第7回を迎える今大会には、国内46都道府県および台湾、ドイツ、オーストラリアから過去最多となる2,115点の想いのこもったマーマレードを出品していただき、5月14日に審査結果を実行委員会及び市の公式ホームページにて発表しました。受賞された皆様に心よりお喜び申し上げますとともに、出品いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。

回を重ねるごとに大会認知度が着実に高まっている一方で、マーマレードの普及・活用は未だ十分とは言えず、その可能性を最大限に引き出すため、本年4月から高度な専門的知識と経験を有する「マーマレード普及推進専門官」を配置しました。

今後は、「マーマレード普及推進専門官」の力を最大限活用することで、マーマレードを地域ブランドとして確立し、国内外に発信していくとともに、来年の第8回大会以降の日本大会開催権の獲得を目指し、引き続き英国大会主催者との連携強化を図ってまいります。そして、誰もが「マーマレードと言えば八幡浜」と認知してもらえるよう、より一層、取り組みを強化していきます。

次に新たな取り組みとなります「愛宕中・松柏中跡地プロジェクト」についてです。

令和7年3月末をもって閉校となりました「愛宕中学校」及び「松柏中学校」については、市内中心部に位置し、非常に利便性の高い用地であると同時に平地の少ない本市にとっては貴重な資源であり、有効に活用したいと考えています。

3月に開催された市議会協議会でもご報告しましたとおり、愛宕中学校については、大規模災害時の避難所や災害対応拠点として利用することを前提に、平時は『U-12（ゆーじゅうに）少年サッカーコート』としても利用できるフットサルコート2面をグラウンドに整備し、市民のスポーツニーズの多様性に対応した施設整備を行う予定です。

校舎については、「第一校舎」は、雇用確保や産業活性化のため、一棟全てを企業誘致用施設として活用する方針で、今後、誘致活動を本格化させたいと考えています。

「第二校舎」は、平常時から防災対策での利用をメインに、白浜、松蔭、江戸岡自主防災会の備蓄倉庫及び市の防災倉庫を整備し、他のスペースは有事の際に避難所として利用する予定です。

松柏中学校については、老朽化が進んでいる2つの養護老人ホームの統合移転や千丈地区公民館の移転新築用地としての活用のほか、校舎を社会福祉協議会の事務所として活用することも検討しています。また、移転を計画されている八幡浜医師会館の建設候補地としての要望も受けています。

なお、同校の跡地利用にあたっては、以前から懸案となっている国道から正門までの進入路の狭隘さを解消するため、国道と同校敷地との間にある農地を取得し、進入路を拡幅する予定です。

このプロジェクトについては、現在検討中の青写真をお示しした段階であり、利用方法

の詳細については今後、慎重に協議し、市民の皆さんに喜んでいただけるよう創意工夫に努めてまいります。

これら6つのプロジェクトはもとより、「わくわくする八幡浜2.0」の実現のためには、本市が直面している様々な課題の解決に向け、それぞれの分野においてさらに取り組みを進めていく必要があります。

重要課題である「人口減少・少子化対策」については、出会いから結婚、妊娠・出産、就学前から小・中・高とライフステージに沿った経済的支援及び精神的支援の両面から、きめ細かなサービスを実施してまいります。

子育て世帯の支援の拡充に加え、妊婦健診や不妊治療等に対する通院交通費の支援を通じて、妊娠・出産における経済的負担の軽減を図るとともに、出会いの場の機会拡大など結婚支援策にも力を入れていきます。

移住・定住の促進については、移住者を対象とした各種支援の充実や今年度が最終年度となる民間賃貸住宅への支援など、住環境改善にも取り組みます。

また、交流人口の拡大だけでなく、八幡浜市を応援してくださる「関係人口」の構築にもより一層力を入れていきます。

「安全安心なまちづくり」については、大規模災害からの早期復興に向けた指針となる八幡浜市事前復興計画の策定を進めるほか、各地で問題となっているインフラの老朽化対策として上下水道施設の耐震化、下水道ストックマネジメント事業に継続して取り組むとともに、大規模雨水処理施設整備事業として保内町神越地区で進めている神越ポンプ場の早期完成を目指します。

「新時代に対応したまちづくり」については、申請業務や施設予約のオンライン化に加え、市役所窓口での手続き支援システムの導入により、市民の利便性向上に努めるほか、デジタル地域通貨の導入など、引き続きDX推進に取り組みます。

また公共施設の照明LED化をはじめ、省エネ診断や新エネルギー設備等の導入支援により、脱炭素社会の実現を目指します。

「暮らしやすいまちづくり」については、今年度新設した「こども家庭センター」を中心に、子育て世代の包括的支援やこどもの居場所づくりの推進に取り組み「こどもまんなか社会」の実現を目指します。さらに、安心できる地域医療体制の構築に努め、養護老人ホームの建て替えや障がい者グループホームの誘致など、誰もが健康で心豊かに暮らせるウェルビーイングなまちづくりにも取り組みます。

また、公共交通の維持確保を図るために、交通事業者への支援拡充のほか、地域公共交通計画に基づき、わかりやすく、使いやすい公共交通の実現を目指してまいります。

教育の分野では、国際的な視野や柔軟な考え方をもち、地域と世界をつなぐ役割を担える人材を育成するため、中学生のシンガポール海外派遣事業を実施します。また、ふるさとキャリア教育や市民ミュージカル推進のほか、自分自身が地域の一員として、まちをより良くしていこうとする気持ちを育むため、若者や子どもたちの意見を市政に反映させる仕組みを構築するなど、シビックプライドの醸成につなげていきます。

「産業振興の取組」については、基幹産業であるかんきつ農業における労働力確保や水産業の担い手育成支援はもちろんのこと、積極的な企業誘致により雇用促進を図るほか、八幡浜ブランド製品のシンガポール輸出事業にも取り組みます。

また、クルーズ船の誘致による観光施策の推進や、ふるさと観光公社の着地型観光を通じた修学旅行の誘致など、八幡浜の強みや八幡浜らしさを最大限に生かした施策に取り組んでまいります。

以上が5期目の市政運営における主要な施策です。

今後、議員各位をはじめ、市民の皆様方からのご意見やご提言を十分お聞きしながら、的確な問題把握に努め、施策の実現に向けて全職員一丸となって取り組み、皆様の信頼と負託に応えていく所存であります。

議員各位におかれましても一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次に、本市の令和6年度決算の概要であります。

まず、一般会計については、四電跡地プロジェクト関連用地の購入や企業誘致に対する補助のほか、弓道場や合葬式納骨施設の整備、広域選果場新築への支援や松蔭地区公民館建設に着手するなど、多くの大型投資事業を実施しました。また、物価高騰が続く中で、やわたはま生活応援商品券事業をはじめとする生活支援や、様々な業種に対する事業者支援にも引き続き取り組みました。

これらの事業に加え、エネルギー価格をはじめとした物価高騰の影響や人件費の上昇などから歳出全般の経費が増大し、厳しい収支状況となりました。しかし、ふるさと納税寄附金が初めて30億円の大台を超え、7年連続で県内1位となる約30億9千万円を達成し、前年度から約7億円の増加となったことや地方交付税の追加交付などもあり、最終的には実質収支で2億662万1千円の黒字を計上し、財政調整基金を取り崩すことなく決算を迎えることができました。

この結果、令和6年度末の財政調整基金の残高は約45億5千万円となり、過去最大の規模となりましたが、令和7年度は引き続き大型投資事業が集中し、長引く物価や資材価格の高騰の影響などから、前年度以上に歳出規模が増大しており、非常に厳しい財政状況となることが予想されます。

今後も、国や県の動向を注視しつつ、財政健全化に努めてまいります。

下水道事業会計につきましては、当年度純利益3,060万2千円を計上し、単年度黒字決算となりました。

しかしながら、今後も中長期的な基本計画である「下水道事業経営戦略」に従い、ストックマネジメント計画に基づく、施設の劣化・損傷を把握するための点検・調査及び計画的な改築・更新を進めることに加え、防災事業として保内町神越地区の浸水被害対策のための大規模雨水処理施設整備事業の推進等により、事業費の増加が見込まれます。

下水道施設を今後も適切に維持していくため、企業としての特性を生かした効率的な経営のもとで、さらなる経営の健全化に努めてまいります。

水道事業会計につきましては、当年度純利益7,299万5千円を計上し、単年度黒字決算となりました。

しかしながら、老朽化した施設の更新や耐震化等で、今後も継続して多額の費用が必要となることに加え、簡易水道事業統合に伴う維持管理費の増加も見込まれる一方、人口減少に伴い給水収益は減少していくことが予想されます。

今後は厳しい経営状況となるが見込まれますが、引き続き、限られた財源の中で経営努力を重ね、安全で良質な水を安定的に提供できるよう努めてまいります。

また、簡易水道事業会計につきましては、当年度純損失87万8千円を計上することとなりましたが、繰越利益剰余金の調整のためのもので、ほぼ例年通りの決算となっています。

病院事業会計につきましては、入院患者数は若干回復し、医業収益は前年度を上回りましたが、当期純損失は4億3,914万円を計上し、赤字額が拡大しました。

この要因としましては、新型コロナウイルス感染症医療提供体制確保事業費補助金の見直しによる医業外収益の減少に加え、医療機関の主要な収入源となる診療報酬（本体）は、2024年度の改定で0.88%引き上げられたものの、人件費や材料費などの上昇に十分に対応できていないことがあげられます。

人口減少が進む中、今後も収益の大幅な増加は期待できず、一方で、支出については人件費や物価高騰による経費の増額が継続して見込まれるため、厳しい状況が続くことが予想されます。

このような状況を踏まえ、令和5年度末に策定した経営強化プランに基づき、健全な経営基盤を構築するとともに、診療レベルの向上を図り、安全で安心な医療を提供できるよう努めてまいります。

それでは、今回提案の6月補正予算の主なものについて、順次ご説明します。

**最初に「新時代に対応したまちづくり」についてです。**

「八幡浜港みらいプロジェクト」による各施設の整備に伴い、来場者の増加が予想される「八幡浜みなと」周辺エリアの利便性向上のため、魚市場敷地内に立体駐車場の整備

を進めます。立体駐車場の屋上は、周辺に高台のない臨海部の津波避難場所として利用し、防災力向上を図ります。

令和7年度は施設の基本設計及び設計に必要な建設予定地の地質調査や地中構造物などの確認のための調査を実施します。

#### 次に「市制施行20周年記念事業」についてです。

記念講演として、9月27日、市民文化活動センターコミカンにて、日本サッカー界のレジェンドであるラモス瑠偉氏と東京やわたはま会の会長でもあるスポーツジャーナリストの二宮清純氏によるトークセッションを開催します。これにより、市民のスポーツへの関心を高め、愛宕中学校跡地に予定しているサッカーコートの整備や利用促進に向けた機運を醸成していきます。

また、官民一体で進めてきましたクルーズ船の誘致活動が実を結び、11月24日と12月20日の2回、商船三井クルーズ「三井オーシャンフジ」の八幡浜港への寄港が決定しました。寄港にあわせて歓迎イベントを行い、港の賑わい創出を目指します。

#### 次に「物価高騰対策事業」についてです。

昨年度実施された定額減税では、減税しきれないと見込まれた方について、差額分が調整給付として支給されましたが、今年度、令和6年分の所得税及び定額減税可能額が確定したことにより「調整給付金」の支給額に不足が生じた場合、また、事業専従者など当初調整給付の対象にならなかった方に「不足額給付」として給付金を支給します。

#### 次に「安全安心なまちづくり」についてです。

昨年発生した能登半島地震や豊後水道の地震などにより、市民の地震への備えの重要性に対する意識が高まっていることから、令和6年度には、家具などの固定化に対する補助を実施したところですが、今年度は感震ブレーカーの購入・設置に対しても、県と協調した補助を実施します。

また、大規模災害時などにおける罹災証明発行に必要な住家被害認定調査に関して、被害状況の把握と調査計画の策定、現地調査をデジタル化することによって、証明書の発行を迅速化するとともに、同システムを共同導入する県下市町において、広域での支援体制の確立を図ります。

そのほかにも、愛媛県が実施する国道や県道の道路整備事業、急傾斜地崩壊対策事業、県単独港湾施設の改良事業等に伴う負担金を計上し、市内の道路等の利便性向上や安全な生活環境の確保を図ります。

#### 次に「暮らしやすいまちづくり」についてです。

人口減少・少子化対策として、妊娠・出産における経済的負担の軽減を図るため、今年度から妊婦健診や不妊治療等に対する通院交通費の支援を開始したところですが、南予圏

域の医療機関への通院交通費も対象とするなど、支援を拡充します。

また、今年4月の中学校統合及び来年4月の小学校統合に伴い、児童・生徒の安全な通学体制を構築するため、スクールバスとしてマイクロバスやミニバンの購入を予定しています。

名誉市民、松村正恒氏の設計である旧八幡浜市立図書館については、建物の特徴的な意匠や文化財的価値を残した形で移築再生し、市民文化活動センターや市民図書館を含む文化ゾーンの中心的施設として保存活用を図ります。

**最後に「産業振興の取り組み」として、**

県が実施する向灘地区の臨港道路改良工事に伴う負担金を引き続き計上し、水産物の輸送力強化及び漁業活動の円滑化を図ります。

以上が、6月補正予算案の概要であります。

この結果、

一般会計のみの補正で、5億6,207万2千円の追加を、ご提案申し上げるものです。

これらの財源としましては、国・県支出金、市債等それぞれの事業施策に対応する額を計上しています。

以上、ご説明申し上げました補正予算案等につきまして、慎重審議を賜りまして、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。